



高齢者と子供たちが集う寺

NPO法人 二塚よりどころ◎富山県・歓盛寺

「NPO法人二塚よりどころ」は、富山県高岡市の曹洞宗歓盛寺の境内にある福祉施設。地域のかけこみ寺として知られるこの施設の代表を務めている仙田智治師は、歓盛寺住職の傍ら、「二塚よりどころ」の副理事長として日夜、檀務と福祉事業に励んでおられる。仙田師は、大きな福祉施設での勤務経験があり、その経験から、より自宅に近い環境や関係性を重視したケアができないか、利用者やご家族の選択肢を少しでも広げられないか、またお寺であることを活かしたことができればと考え、一念発起して平成18年12月に「二塚よりどころ」を設立した。

まずはじめに、「NPO法人二塚よりどころ」の活動概要についてお聞きした。NPO法人であれば活動内容も明確になり、間口が広がるのではと考えられ



阪神・淡路大震災追悼イベントで灯されるキャンドル

NPO法人格を取得することは、信頼感を得、また活動が市民権を得られるという点でメリットは多いとのこと。また、当初は一戸師と外崎氏の、二人で

始めたこの活動だが、今や理事10名や、梅花講員などの多くの檀信徒によって支えられている。活動の輪が広がったその背景として、以前「金木病院の救急体制を維持する会」の活動に参加し、そこで地域の信頼を得ることができたのが大きな要因ではないかと師は自己分析する。また、梅花講に声を掛け、その横のつながりで参加者が増え、いったことも大きかったという。

「師の活動の原動力は何か？」と問うたところ、「常々、仏教とはどういうものなのか、仏教者としてなすべきことは何か、真剣に考えていることです」という答えが返ってきた。

「仏教はそもそも、公益をもたらすもの。苦しみ悩む人がいるならば、祈るだけや、心の問題だけに帰結させず、実際に行動すべきなのです」

師はまた、寺院や僧侶が社会活動に参加することを、地域社会が期待してくれていることを現場において肌で感じているという。また、「飛び込むことで、それが自己変革につながり、その後、社会参加、社会変革につながっていきます。飛び込むことは、仏教者の自己実現につながります」と、自身の経験を踏まえ、私たち青年僧侶には、尻込みをせず、また、言い訳をせず、思い切って社会の只中に飛び込んでいくことを期待している。師は最後に、飛び込む際の心構えを教えてください。

「『衣』というバリアーを脱ぎ、本音で、生身の人間



老若男女が集う富山型ディサービス

た仙田師は、仏教と福祉は相反しないということであって「二塚よりどころ」を宗教法人と併設した。また、大きな施設では細やかで柔軟な対応が行いにくい場合が多いこと、家庭的にしたかったということ、介護施設の規模としては少ない定員とした(ディサービスは10名、ショートステイは6名)。さらに、介護保険事業以外にも、障がいのある方や、自主事業として緊急の方や補導委託の受け入れも行っている。

当初は法律の縦割りが原因で、高齢者は高齢者同士、子どもたちは子どもたち同士でしか受入れることができなかったとのこと。しかし仙田師は、赤ちゃんとからお年寄り、障がいの有無にかかわらず、受け入れ、ふれあい、互いに支え、活かし合い、交流する場にしていきたいという考えから、高齢者と、障がいを持った子供たちを同時に受け入れる、富山型

同士互いに交流することですね。そうすることで、批判もあれば、期待も率直に打ち明けてくれ、そこに信頼が生まれ、力強い活動の輪が広がっていくはずですよ」

(取材・文長岡俊成(広報委員会委託委員))

NPO法人 燭光

住所◎〒037-0202
青森県五所川原市金木町朝日山433
電話番号◎0173-53-2074
Fax番号◎0173-52-3090
E-mailアドレス◎oldpine@jomon.ne.jp
ホームページURL◎
<http://www.jomon.ne.jp/~oldpine/shokko/>
法人形態◎特定非営利活動(NPO)法人
理事長◎一戸彰晃
設立年月日◎2009年1月(認証)
主な活動内容◎
①使用済みロウソクの回収
②再生ロウソクの製造と販売
③「人権・平和・環境」問題に取り組む団体への再生ロウソクの提供
年会費◎1,000円(正会員、賛助会員とも)
会員数◎約50名(うち、理事は11名)